

論点と今後の進め方

議論いただきたい論点

前提

- ① トラックドライバーに対する時間外労働規制等により、国内貨物輸送の5割(トンキロベース)を占める自動車による一度の輸送距離が従前より短くなり、中小トラック会社も含め、中継輸送の社会的ニーズが一層高まっており、一定の公共性を前提とする必要。

また、このニーズに対応するため、積み荷の保管、積替え、ドライバーの交代等を行うための物流拠点の一層の需要増、地理的分散化が進展。

- ② トラックドライバー不足に対応するため、特に三大都市圏や各地方都市圏を結節する幹線において、ダブル連結トラック、自動運転トラック等を用いた輸送の普及が、中小トラック会社も含め今後急速に進展。

これに伴い、この幹線輸送と地域配送を円滑に連結する、一定の公共性を前提とした基幹物流拠点の整備運営が今後必要。

論点

- ① 中継輸送の拠点等の役割を果たす物流拠点の建設・運営のあり方はどうあるべきか。また、どのような機能を必要とするのか。

地方部への拡大にあたっての課題は何か。

- ② この基幹物流拠点は、どのような主体が建設・運営し、どのような機能を必要とするのか。課題は何か。



議論いただきたい論点

前提

③ 前提①・②における物流拠点に対して、地域の産業政策や活性化、まちづくり、災害時の連携等の役割を期待し、地域の計画等への位置づけを積極的に図る自治体が増加してゆく見込み。

④ 前提①・②の物流拠点に加え、湾岸部や各地域における物流の結節点として営業倉庫が重要な役割を果たしているところ、その施設の老朽化が進み、建替えがうまく進んでいない。

その際、当該営業倉庫業者が単独ではなく、他の営業倉庫業者、あるいは不動産事業者や金融事業者等の複数の者で連携して、建て替えや物流拠点としての再構築にあたる事例が今後増加。

再構築にあたり、まちづくり等と連携した、オフィス、生活支援機能等、倉庫以外の多様な機能の提供も増加。

論点

③ 自治体が物流拠点に対して求める機能、役割は何か。
また受入れにあたっての課題は何か。

④ 前提①・②のような物流拠点の潮流にあつて、営業用倉庫が今後果たしていく役割は何か。
また、複数事業者が連携した営業用倉庫を含めた物流拠点の再構築の取組みが進むに際しての課題は何か。



- 2024年10月30日 第1回
(議題)物流拠点を取り巻く環境の変化や課題
- 2024年12月 第2回
(議題)関係事業者からのヒアリング
- 2025年1月 第3回
(議題)物流拠点の課題、政策の方向性の確認、骨子(案)
- 2025年3月 第4回
(議題)物流拠点の課題、政策の方向性の確認、骨子・報告書(案)